

江戸川水門工事に就て

内務省東京土木出張所 内務技師 樫 部 保

江戸川河水統制工事の全般に就ては前號を参照され度い、本號には水門工事の一部をなす閘門工事に就て紹介するものである(編者)

閘 門

水門に隣接して閘門を築造し、水門扉を閉鎖したる時に船舶の航行を支障なからしむるもので、大きに於て東洋一の閘門である。閘門は扉を装置する上扉室、下扉室と、其の間に在る閘室とから成つてゐる。扉室には通水路があつて閘室内の水位と閘門外の水位とを調節し、扉を開閉して船舶を航行せしむるものである。

今後の河川工事

世は總て統制の時代である。經濟統制、産業統制、教育統制、文藝統制、交通統制などは勿論の事であるが國家が生産の總力を發揮せんとするには何うしても合理的の統制が必要になつて来る。

河水統制の水門工事などは最も有效なる天然資源開發の一つである、江戸川統制工事の如きは水力發電には利用されてゐないが、山口縣の錦川や、神奈川県相模川上流の統制工事などには何れも發電所に利用されてゐる。滿洲國の第二松花江開發の洪水調整工事などは所謂綜合利用に供さるゝもので、今後の河川改修工事は總て此の水利統制を目的とする事であらう。

曾て物部博士が徹宵して之が爲に全國の地形圖を調査した事を聞いたが、物部博士の勞が今や漸く芽を吹いて來たわけである。(編者)

